

「銀杏並木」

この風景は昨年11月9日に秋を求めて訪れた東京都立光が丘公園の並木道です。

この公園を少し紹介します。開園は1981年ですが、その昔は郊外の長閑な農村地帯でした。太平洋戦争でこの地に飛行場が造られ、戦後は米軍の管理下に置かれていましたが1973年に日本に返還されました。それを機に1981年、周辺の整備が一齐に進められ12,000戸を擁する光が丘団地や学校がこの公園とともに整備され今日に至っています。

絵の銀杏は有楽町にあった旧都庁の街路樹として1907年に植えられましたが、1985年この公園に移植されました。従って樹齢は120年近くですが、千年近くも生息する銀杏にとってはまだ若いようです。2010年に倒れた鎌倉八幡宮の大銀杏は樹齢約800年と言われていました。皆さんの所にも立派な大銀杏があるのではないのでしょうか。

この銀杏並木を描いて改めて認識したことは、幹はゴツゴツとした樹皮を無骨にまっすぐに空に伸び、葉は黄色をベースに薄緑色から枯葉色まで変化に富んでいるということでした。葉っぱの変化は見るには美しいものですが、何時ものことながら描き手を大いに悩ませるものでありました。これからもっともっと大きな木に育ち、四季折々に人々を楽しませ見守っていつてくれることを願っています。



菊岡 保人



Size : 530×455mm (F10)

